

○水生生物モニタリング調査結果一覧（猪苗代湖（北岸）I・猪苗代湖（南岸）J）

＜猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
J-1	○	○	○	○	○	○

＜猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質					底質		その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)		
J-1 (表層)	37.4203°	140.1008°	R2.12.1	13:40	14:20	9.2	9.3	砂	7.5Y 5/3	水草	3.5	>3.5		
J-1 (下層)														

＜猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
J-1 (表層)	37.4203°	140.1008°	R2.12.1	13:40	6.8	<0.5	1.6	11.2	11.3	0.06	0.6	<1	0.3	N.D. (0.0012)	0.0039	—
J-1 (下層)					6.7	<0.5	1.7	11.2	11.2	0.06	0.7	1	0.6	N.D. (0.0013)	0.0037	0.00084

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)	
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)				最大粒径 (mm)
J-1	37.4203°	140.1008°	R2.12.1	14:20	6.8	216	26.1	1.2	5.6	2.740	0.4	0.9	46.2	37.5	9.0	6.0	0.24	9.5	1.8	44	N.D. (0.13)

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
I-1 I-2 (北岸)	湖内 および 長瀬川	37.5047° 37.4995°	140.1143° 140.1409°	R2.12.1	粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.22	—	—	—	2.9	N.D. (0.81)	2.9	—
J-1 (南岸)	湖内 および 鬼沼周辺	37.4203°	140.1008°	R2.12.1	藻類・植物	—	—	—	—	プランクトン (浮遊藻類)	—	0.025	—	—	—	N.D.	N.D. (1.6)	N.D. (1.4)	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	20	0.033	成魚	—	—	6.4	N.D. (1.5)	6.4	—
					脊椎動物	硬骨魚	スギ	タイワツジ	<i>Channa argus</i>	カムルチー	2	0.039	未成魚	—	—	9.3	N.D. (1.4)	9.3	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。